

白糖高 植樹祭に参加

地球温暖化対策の役に

学校設定科目「環境鮮麗学」の一環

【釧路発】白糖高校（佐野任夫校長）の1年生23人は5月24日、白糖町緑化推進委員会が主催した植樹祭に参加した。学校設定科目「環境鮮麗学」の一環として行ったもの。



地域の協賛団体の関係者らと共に400本のトドマツを植樹するなど、地球温暖化対策の一助となる活動に励んだ。

同校は前年度から学校設定科目「環境鮮麗学」において、様々な角度から環境問題につい

て学ぶ機会を多く設けている。植樹祭活動を、環境問題を自分自身の身近な問題として考える契機と捉え、ことしから初めて参加している。

植樹祭は町内の町有林で行われた。町役場職員のほか釧根西部森林管理署や白糖・森林と川と海を守る会など共催団体の関係者と共に植栽を実施。雨が降る

中、地面に伸びるササの根に苦戦しながらも穴を掘り、丁寧にトドマツの苗木400本を協力して植えた。写真。

植樹活動に励んだ生徒からは「ササの根が邪魔で穴を掘るのに苦戦した。でもこのトドマツが20年後大きく成長するのが楽しみ」など感想の声が上がった。